



農業者の所得増大 & 農業生産の拡大



- ✓ 台風の被災農家へJA単独助成3,234万円(2月)
 該当農家に、平成29年作付け分としてナガイモ、ゴボウ、ネギなど20品目で、JAから購入した種苗費の1/2を助成した。対象農家995戸、対象面積479㌃。
- ✓ 担い手育成を強化(4月、9月)
 ナガイモ、ニンニクに加え、ネギ・ゴボウ・ピーマンで新たに育成塾を開講し、若手農家らが栽培技術を学ぶ(4月)。
 おいらせ町では、若手農家を集めた初の合同勉強会を開催した(9月)。
- ✓ 低温長雨対策本部設置(8月)
 農家組合員に随時、生産臨時情報を提供。全支店・事業所に対策相談室を設け、農作物全般の管理徹底を促した。
- ✓ マネージメントスクール設立(9月)
 儲かる農業経営に向け、30~40代の塾生12人が2年間、財務管理などを学ぶ。
- ✓ 小玉規格トマトパック出荷開始(10月)
 S・2Sの単価アップを狙い、産地パック出荷による契約栽培で3割増しの価格を実現した。
- ✓ ニンニク優良種子増産へ(10月)
 種子生産圃場を30㌃増の4㌃に拡大し、生産農家の規模拡大を後押しする。来年供給分は3万球増の39万球見込む。



地域の活性化

- ✓ 「農業」や「食」を通じて、地域住民との協同活動
 JA地産地消イベントで産地づくめ堪能(2月)、支店のJAまつり(8~11月)、小学校へ出前授業(6~10月)、中高生の就労体験(6~9月)、JA年金友の会「グラウンドゴルフ大会」(9月)、JA収穫祭(10月)、青年部と連携して体験型婚活イベント開催(11月)など。



JA地産地消イベントで地元産づくめ堪能



支店JAまつりで女性部がおにぎり無償提供



出前授業で小学生が地元特産品学ぶ



JA年金友の会のグラウンドゴルフ大会

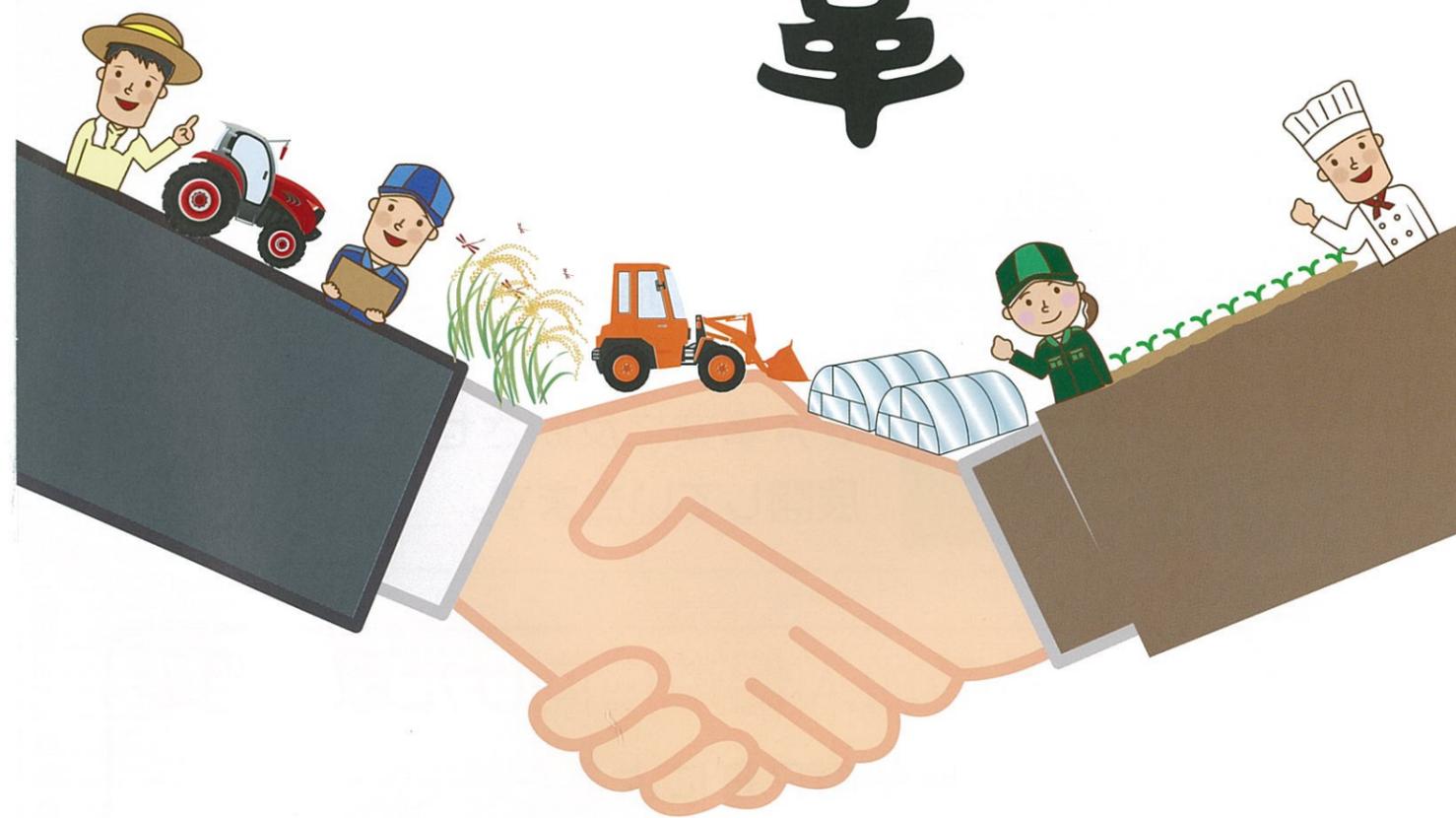


体験型婚活イベント。地元食材で料理教室

JA十和田おいらせの

自己改革

「農業者の所得増大」
 「農業生産の拡大」
 「地域の活性化」
 に向けた取り組み





JA十和田おいらせは

「**農業者の所得増大**」「**農業生産の拡大**」「**地域の活性化**」の

3つの大きな目標を達成するため、

「**創造的自己改革**」に取り組みます。



自己改革の実施計画



産地拡大対策事業の継続実施



ながいもムカゴや野菜栽培面積の増反分に対する種苗費助成等の実施により、野菜産地拡大に取り組みます。



JA受託作業の充実

施設利用者の利便性の向上、農産物の高品質出荷に向け、農業施設や収穫機械・共選設備等の充実に図ります。



担い手パワーアップ・アクションの展開



出向く指導体制を強化し、農家組合員の意見・要望等を吸い上げ、JA事業に反映させる訪問活動を展開していきます。



購買事業におけるランク奨励等の実施

予約購買による肥料・農薬等の利用メリットを呼びかけるほか、各種奨励金等の実施により、生産農家のコスト低減を図っていきます。



組合員の加入促進に向けた取り組み

一戸複数組合員制のPRによる正組合員加入を進めるほか、信用・共済事業との連携により、准組合員加入の促進に努めます。



〔自己改革の実践状況〕

1) 産地拡大対策事業の継続実施



ながいもムカゴ優良種苗助成（5,944kg：316名）及び、種子助成（45ha：118名）に取り組みました。

助成区分	平成29年度	平成28年度
ながいもムカゴ	5,944kg (316名)	3,149kg (170名)
種子助成による 面積拡大	45.5ha (118名)	55.4ha (235名)

2) 担い手パワーアップ・アクションの展開

販売額500万円以上の農家を巡回し、意見・要望等を吸い上げ、JA事業へ反映させる訪問活動（5,322件：前年比975件増）を実施しました。

区分	平成29年度	平成28年度
累計訪問 件数	5,322件	4,347件
	（うち大規模農家 1,182件）	（うち大規模農家 910件）
	うち未利用者 38件	うち未利用者 13件

生産・協力組織へ3,700万円を助成金として支出し、産地及び担い手育成に取り組みました。



パワーアップ・アクション担当者による農家巡回

3) 市場調査の実施

市場調査員を定期的に首都圏市場へ派遣し、営業活動を展開することにより、価格交渉や新たな販売戦略、取引先の拡大に取り組みました。

4) JA受託作業の充実

だいこん、にんじん、ばれいしょ、にんにく、ねぎ、ごぼうの収穫作業受託（262ha：前年比32ha増）、共選作業（465ha：前年比42ha増）を実施し、労働力の軽減を図りました。

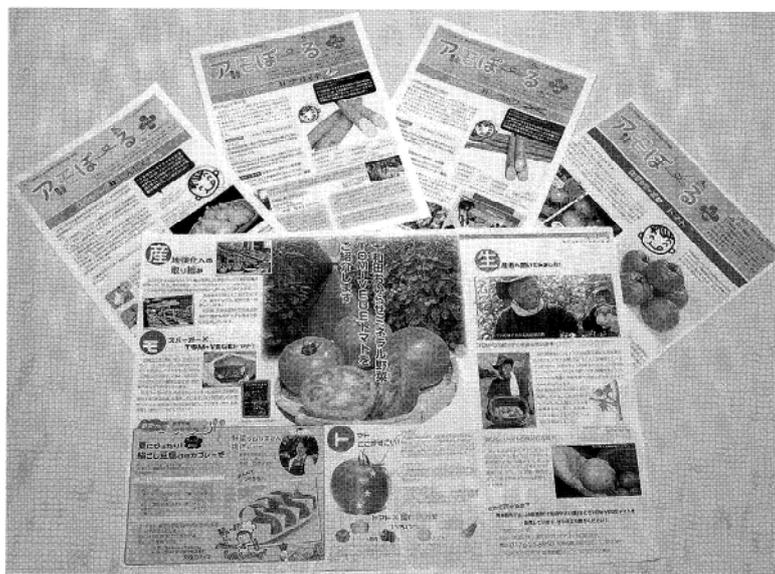
品目	区分	平成29年度	平成28年度	備 考
だいこん収穫作業		134ha	117ha	
”	共選作業	137ha	123ha	
にんじん収穫作業		89ha	76ha	
”	共選作業	121ha	105ha	
ばれいしょ収穫作業		39ha	37ha	内加工ばれいしょ〔H29：36ha、H28：34ha〕
”	共選作業	9ha	11ha	青果ばれいしょ
にんにく共選作業		62ha	60ha	生・乾燥共選
ね ぎ共選作業		15ha	13ha	
ご ぼう共選作業		121ha	111ha	
計		727ha	653ha	
	うち収穫作業	(262ha)	(230ha)	
	うち共選作業	(465ha)	(423ha)	

5) 購買事業におけるランク奨励の実施

平成29年度肥料・農薬大口利用・ダンボール出荷奨励金として、約6,700万円の奨励措置の実施により、組合員の所得向上に向けた支援に取り組みました。

6) 組合員の加入促進に向けた取り組み

組織基盤充実を目指し、複数組合員制による農業後継者や女性の正組合員への加入促進に取り組みました。3月末では女性の正組合員は946名となり、全体に占める割合は14.2%となっています。



准組合員向け広報紙「アモ ぼーる」（平成29年度3回発行）

1. 農業者の所得増大への支援力発揮

取り組みの名称				
<p>○担い手育成塾を開催</p> <p>○マネジメントスクール</p>				
取り組みの目的・コンセプト				
<p>○ナガイモ・ニンニク・ネギ・ゴボウ・ピーマンの品目毎に若手農家に栽培技術の習得および意欲を引き出す。</p> <p>○儲かる農業経営に向けて、1クール2年間で財務管理などを学ぶ。</p>				
参集範囲	正組合員	○	職員	×
	准組合員	○	その他	×
	地域住民	×		
取り組み内容				
<p>○担い手育成塾を開催</p> <p>ナガイモ、ニンニク、ネギ、ゴボウ、ピーマンの5品目に、延べ103名の次代の担い手が参加。各品目の達人（指導機関や農業者）より年間3～5回の講義や現地指導会を開催し、技術を学ぶ。</p> <p>○マネジメントスクール</p> <p>担い手育成塾生や青年部員等を対象とし、事業としての農業について農業経営の基礎から、自家労働力で最大限可能な作物の組み合わせや、労働力平準化のための品目の組み合わせ等、具体的なシュミレーションにより、我が家に最適な品目の組み合わせ検討、簿記記帳、労務管理等を研修し、自立した農業経営者を養成する。</p>				
実績（人数・経費等）、効果等				
<p>○ながいも育成塾〔H23年度開講、塾生29名〕、次世代にんにく塾〔H25年度開講、塾生32名〕、ごぼう職人塾〔H29年度開講、塾生15名〕、ねぎ塾〔H29年度開講、塾生21名〕、ピーマン塾〔H29年度開講、塾生6名〕</p> <p>○マネジメントスクール〔H29年度開講、塾生12名〕</p>				

1. 農業者の所得増大への支援力発揮

取り組みの名称				
<p>○台風の被災農家へ J A 単独助成</p> <p>○低温長雨対策本部設置</p>				
取り組みの目的・コンセプト				
<p>○H28年の台風被災組合員の内、国庫補助事業の対象外となった組合員に対し、次作の作付支援のため生産資材の一部を助成。</p> <p>○H29年8月の低温長雨により、水稻栽培での防除の徹底を促すため、対策本部を設置。</p>				
参集範囲	正組合員	○	職員	×
	准組合員	○	その他	×
	地域住民	×		
取り組み内容				
<p>○H28年台風被災者(国庫補助対象外農家)に対し、次期作の作付支援のため種苗費の1/2を助成(H29年3月助成済み)</p> <p>○低温長雨への支援対策として、水稻穂揃い期防除実施者(J A への共同防除申込みまたは J A から防除薬剤購入が条件)へ薬剤費の4割を助成(H30年3月助成済み)</p>				
実績(人数・経費等)、効果等				
<p>○H28年台風被災者の被災品目での営農再開割合は100%</p> <p>助成対象品目：20品目(そば、野菜19品目) 被災面積405ha、延913戸(実戸数557戸)、助成金額：28,523千円</p> <p>○低温長雨支援対策</p> <p>薬剤費助成実績：対象面積3,110ha、1,822戸、9,329千円</p>				

1. 農業者の所得増大への支援力発揮

取り組みの名称				
やさい産地拡大対策事業に係る助成				
取り組みの目的・コンセプト				
品目別に増反分に対して種苗費の購入金額の全額～一部を助成				
参集範囲	正組合員	○	職員	×
	准組合員	○	その他	×
	地域住民	×		
取り組み内容				
<p>○野菜品目毎にJAへ過去最大の作付面積登録を超えて作付・出荷した面積に対し、種苗費の全額～一部を助成する。</p> <p>○長芋の栽培面積維持のため、ムカゴ購入者に対し購入代金の一部（1/3）を助成する。</p> <p>○健康な土づくりと、TOM-VEGEブランド野菜の面積拡大のため、JAでの土壌診断実施者に対し、診断費用に一部(1/2)を助成する。</p>				
実績（人数・経費等）、効果等				
<p>○増反分への種苗費助成実績：45.5ha、118戸、9,589千円</p> <p>○長芋ムカゴ購入助成：5,944kg、316戸、7,287千円</p> <p>○土壌診断助成：3,525点、1,023戸、1,848千円</p>				

2. 地域活性化への貢献力発揮

取り組みの名称				
J A 収穫祭（旧十和田市管内）				
取り組みの目的・コンセプト				
「地域に開かれたJ A」をめざし、組合員はもとより一般市民とともに今年の収穫に感謝し合い、消費者に対して農業・J Aの役割などについて理解を深めていただくことを目的とする。				
参集範囲	正組合員	○	職員	○
	准組合員	○	その他	
	地域住民	○		
取り組み内容				
平成29年10月21日（土）、22日（日）の2日間に渡り、農林産物花き共励会、特産物・加工品即売コーナー、新米即売コーナー、青年部・女性部出店、食育クイズコーナー、女性部舞踊ショー、歌謡・園芸ショー等を行い、これらの各種イベントにて、農畜産物など地域農業のPRとJ Aの事業について理解を深めていただく。				
実績（人数・経費等）、効果等				
参集人員は、2日間で6,500人を超えた。売上収入を差し引いたJ A持ち出し費用金額は、3,668千円となった。				

2. 地域活性化への貢献力発揮

取り組みの名称				
J Aふれあい祭ほか（6支店）において開催				
取り組みの目的・コンセプト				
組合員とその家族及び地域住民が一堂に会し、日ごろの共同活動の成果を確認し、交流することを目的とする。				
参集範囲	正組合員	○	職員	○
	准組合員	○	その他	
	地域住民	○		
取り組み内容				
平成29年8月から11月までの期間においてそれぞれの支店において、農産物・特産物・加工品の即売コーナーや新米即売コーナー、青年部・女性部出店コーナー、歌謡・園芸ショー等を行い、これらの各種イベントにて、農畜産物など地域農業のPRとJAの事業について理解を深めていただく。				
実績（人数・経費等）、効果等				
参集人員は、合わせてで5,400人を超えた。売上収入を差し引いたJA持ち出し費用金額は、6支店合計で2,762千円となった。				

2. 地域活性化への貢献力発揮

取り組みの名称				
若手農業者パワーアップ大会				
取り組みの目的・コンセプト				
管内の農業に従事する若手農業者が一堂に会し、相互に情報交換を行い、交流を深め、地域農業の夢について語り合う場を設定する。人と人との繋がりを大切にし、それぞれが経営発展や農業従事への意欲の高揚を図るとともに、若手農業者が活発になることで管内の農業の若返り、活性化へつなげる。				
参集範囲	正組合員	○	職員	○
	准組合員	×	その他	×
	地域住民	×		
取り組み内容				
管内の農業に従事する45歳以下の組合員若しくはその家族を一堂に集め、講演による地域農業への理解度向上と、参加者から決意表明をしていただき意識高揚を図る。また、相互の交流を深めると共に「JA及びJA職員との関係性の強化を図る。				
実績（人数・経費等）、効果等				
<p>参加人員は、管内対象者約400名のうち185名に役職員を加え285名の大会でした。</p> <p>経費は、295万円となりました。</p> <p>効果としては、アンケートで満足した方が89%、次回も参加したいという方が96%でした。フリー記入欄には「人手不足」を訴える方が多数おりました。</p> <p>※新規取り組みのため、前年度との比較データはありません。</p>				

2. 地域活性化への貢献力発揮

取り組みの名称				
体験型婚活イベント「トワーレ d e アモーレ」				
取り組みの目的・コンセプト				
青年部とJA合同で企画運営をし、婚活だけでなく交流を深め、仲間としての輪を広げるイベントにする。				
参集範囲	正組合員	○	職員	○
	准組合員	○	その他	○
	地域住民	○		
取り組み内容				
開催日	11月4日(土)			
場所	市民交流プラザ「トワーレ」 住所：十和田市稲生町18-33			
時間	14時から19時			
参加人数	男性12名 女性12名			
内容	フリートーク→料理体験→ひょうたんランプ作り教室→食事会			
実績(人数・経費等)、効果等				
29年度から事業開始				
<p>企画・運営を青年部とJA合同で行う、婚活実行委員会を立ち上げて開催した。青年部のポリシーブックで「男女の出会い」についての問題点と、JA側の「農業後継者の婚活」について両者の問題点が一致し、今回のイベント開催となり自発的に活動できた。また、参加する男性も青年部だったためニーズに合った企画が作れた。</p> <p>実行委員会の考えでカップリングを行わず、参加した方との会話や仲間づくりを重視した結果、開催一か月後に一組のカップルが誕生した。</p>				

